

### 第3回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会（摘録）

【日時】 平成24年7月25日（水） 15:00～17:00

【場所】 企業局3階 講習室

【出席者】 検討委員会委員 18人（欠席2人）  
教育委員会事務局 6人

【傍聴者】 0人

【取材】 1人

【次第】 司会：学校再編推進室主査

1 開会

2 議題

(1) 第2回大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会の摘録について  
修正等はなく了承。

(※ 情報公開センター及び市ホームページでの公表資料とする。)

(2) 配付資料の説明

発言者	発言内容
委員長	類似団体の適正規模・適正配置について説明をお願いします。
事務局	(資料2)の類似団体への照会結果を説明。 ・35市に照会し、19市から回答があったもの。
委員長	具体的な学校再編を検討する際の参考資料とします。 類似団体の中で、第2回検討委員会において委員から資料提供依頼があった飯塚市、伊勢市の資料について説明をお願いします。
事務局	(資料3)飯塚市、(資料4)伊勢市の資料について説明。
委員長	飯塚市と伊勢市は、大牟田とよく似ているということで、前回委員から資料提供依頼があったものです。 飯塚市は小学校22校を19校、中学校12校を10校に、伊勢市は小学校24校を15校、中学校12校を7校にする予定です。 何かご質問等はございませんか。
全委員	質問、意見なし。

(3) 学校再編の方策について

①再編の方法

②小中一貫校について

発言者	発言内容
委員長	次は、第2回会議で配付された学校再編の手法についての資料を、事務局から説明をお願いします。
事務局	第2回検討委員会で配付した学校再編（統合）の手法（例）の資料を説明。

	<p>※南筑後管内では、八女市の上陽北浜学園で、施設一体型の小中一貫校を実施している。正式な小中一貫校では校長1人、教頭2人が配置される。</p>
委員長	<p>第一次実施計画と第二次実施計画は、4のスタイルでしょうね。再編の手法について、何かご質問等はございませんか。</p>
全委員	<p>質問なし。</p>
委員長	<p>次は、小中一貫校について、第1回、第2回の検討委員会で話題になりました。そこで小中一貫校の良い点、悪い点も含め、資料の説明を事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>資料5（小中連携、一貫教育について）、資料6（小中一貫校のメリット・デメリット）について資料を基に説明。</p>
委員長	<p>小中一貫校についての論議を深めてみたいと思います。 大牟田市では、例えば小中学生と一緒にスポーツ大会をしたり、先生方の合同研修を行ったり、小中交流や小中連携は、どこの学校でも取り組んでいると思います。 小中一貫教育と小中一貫校というのは、教育課程を小中で系統的に実施するということです。だからデメリットの中で、転出や転入への対応が難しいと書いてあります。良い点では、中1ギャップの解消、いじめや不登校が減るだろうということです。 小中一貫教育について、委員の皆さんから発言をお願いします。</p>
委員	<p>現在、大牟田市では小中連携が実施されていますが、年に何回くらい交流しているのですか。</p>
委員	<p>みなと小校区では、運動会の交流、教員の合同研修会実施など、1年間に10回程度の交流を行っています。</p>
委員	<p>小中一貫校と小中一貫教育は全く異なります。 小中一貫校は、同じ視点で小学校と中学校の教育がありますが、小中一貫教育は、小学校の先生が中学校に教えに行ったり、中学校の先生が小学校に教えに行ったりして、連携が深まるようにすることです。</p>
委員長	<p>小中一貫教育と小中一貫校は違うということをおっしゃっています。 具体的に小中一貫校というのは、小学校と中学校の先生が同じ職員室にいるということです。そして、小学校の先生が中学校に教えに行き、中学校の先生が小学校に教えに行きますが、これは小中一貫教育でもできます。</p>
委員	<p>小中一貫校は同一施設の中で教育を行います。小中連携は、小学校の2、3校をまとめて、1つの中学校と交流するグループ化した教育を、東京の三鷹市が行っています。これは、1つの小学校と1中学校が同じ施設で教育するものではありません。八女市の上陽北浜学園は、小学校と中学校の合併により最終的に小学校6校と中学校2校が1つになり、同じ施設で教育を行う一貫校です。</p>

委員	一貫校と一貫教育というのは、ちょっと違います。
委員長	<p>小学校と中学校が同じ敷地になくても、近隣であったら小中一貫教育ができます。ところが、同じ敷地内に小学校と中学校があって、同じ職員室に小学校と中学校の先生が一緒にいて、小学生と中学生に教育を行うのが小中一貫校です。</p> <p>しかし、小中連携と小中交流はまた違うでしょう。</p>
委員	<p>連携は、あくまでも小学校と中学校がそれぞれ独立して、大牟田のように連携を行うものです。先程の三鷹市の小中一貫校は敷地が隣同士ですが、一貫校です。</p> <p>また、今年の1月に四国の高松市に視察に行きましたが、高松市は適正規模・適正配置を検討する中で、市の中心部にある学校が、人口のドーナツ化現象で小規模化し、小学校が3校と中学校2校が一緒になり施設一体型の小中一貫教育校を開校しました。高松第一小学校と第一中学校では、9年間を通して4・3・2年間のカリキュラムで教育が行われています。職員室も小中学校一緒に、事柄に応じて臨機応変に小中合同の職員会議を行うこともあれば、小学校、中学校分かれて職員会議を行うことがあるということです。</p> <p>メリット・デメリットは、資料にあるようなことをおっしゃってました。小学校高学年に中学校の先生が専門的な指導をするということがありましたが、中1ギャップが解消されて不登校も減ったということです。</p>
委員長	<p>小中一貫校では、小学校5、6年、中学校1年の充実が図られるということです。</p> <p>だから、小学校から中学校への進学時を充実させると、不登校とかいじめといった心配が減るという効果があるということです。中学校がうまくいかないと、小学校の保護者から見ると親は不安です。ところが、充実させると、中1ギャップの解消など、様々な良い点が出てきます。</p> <p>小中一貫校は、都会の中心部や離島などで多く実施されているようです。そういう中で、小中一貫校を大牟田に適用した場合を想定して、意見を発言してください。</p>
委員	小中一貫教育、一貫校で教育課程を4・3・2年にするというのは、文部科学省が推奨しているのですか。
委員	いろんなやり方があります。
委員	<p>いじめの問題とかいろいろありますが、小中一貫校にしたから解消できるとは限りません。逆に尾を引っ張る可能性もあります。小学校6年間の課題が、中学校まで連綿と繋がっていく形態ではないでしょうか。</p> <p>例えば、中学校の先生が小学生を教えたり、小学校1年の先生が中学3年生に教えたりするといったことがあります。そういう教育は、教員の資質の面からも望ましくないと思います。</p>
委員	あくまでも小学校と中学校が同じ敷地地内にあって、小学校の課題を抱えたまま中学校に進学するのを、小学校の先生から中学校の先生に伝えやすいし、中学校の先生も小学校の問題点を早く分かったほうがいだろうというメリットです。小学校1年の先生が中学校3年の授業をするという

	のは、教員免許の問題もあります。
委員	しかし、将来的には同じ学校内に1小中学校となるので、その中で先生が異動するということもあり得ます。
委員	例えば、4・3・2制の場合、中学校の先生が関わるのは小学校5、6年生です。
委員	我々はこの検討委員会で初めて議論しているので、議論を詰めていかないと、小中一貫教育、小中一貫校が良いのか、悪いのか意味合いが分からないと思います。
委員長	検討委員会の協議の流れの中で、A校とB校とC校を小中一貫校にするといったことも出てくると思います。そこで、小中一貫教育、小中一貫校について論議する時間を設けています。具体的に学校をどうするかということで、小中連携、小中交流、小中一貫について現時点での〇〇委員個人の意見はどうですか。
委員	箱物が先にありきという感じがします。子ども達の人間関係を大事に育てたいという視点からいうと、子ども達は切磋琢磨しながら仲間づくりをし、その中でいろんなことを学んでいきます。同じ少人数で中学校まで進学するよりも、仲間や出会う人を変えながら成長する場の設定が、子どもにとってとても大切なように思います。形が先にありきではなく、子ども達の人間関係をつくるためのものを先に考えていただけたらと思います。 例えば、これまでに不登校の子どもが、場が少し変わることで不登校が解消した経験も持っています。
委員長	形をつくるよりも中身を検討した方がいいということですね。
委員	学校は、不登校や学力の問題を抱えています。一貫校が先にありきというよりも、そういう子ども達にどういう場を設定してあげるのが一番大事ではないかと思います。
委員長	小中一貫校を導入しようとしているところは、中1ギャップにとっても力を入れています。不登校やいじめがなくなるよう、良い点を追求し、それなりに成果が出ているようです。しかし、親として、一教師としての「それだけで大丈夫か」という不安もあるでしょうね。
委員	中1ギャップについて、子ども達の具体的な状況を教えていただきたいと思います。
委員	小学校は学級担任制なので、担任と子どもが接することが多く、担任が子ども一人ひとりに対して学習だけに限らず指導していこうという姿勢があり、人間関係も濃い。中学校は、教科担任制なので、常に子どもを見ている機会が減ります。 小学校と中学校の生活に差があり、その変化の内容についていける子どももいるが、中にはついていけない子どももいて、それが不登校に繋がったりもしていると思います。1番大きいのは環境だと思います。 小学校は担任の先生がいるので、何かあると担任に相談しやすい状況に

	あると思います。中学校は、担任がずっと一緒ではないので、何かあると職員室に行って話さなければなりません。
委員	先日、教務主任の研修で、小中連携や一貫校についての研修を受けました。中学校は昔のイメージと違って、小中一貫というよりも連携しながらたくさんの壁を取り除こうとする取り組みをどの学校からも発表されました。私たちが育ったときの中学校のイメージとは全く違い、きめ細かな関わりを持って学力、生活の指導をされています。
委員長	〇〇委員、中学校の保護者代表として、小中一貫についていかがですか。
委員	あまりよく分かりませんが、小中学校が一緒でもいじめはなくならないと思います。逆に引きずることも多い。私の子どもは、中学校のときの顔は落ち込んでいましたが、高校に進学して元気になりました。パッと環境が変わるのもいいのかなと思います。 根本的に先生方の質、子どもに対する教育力だと思います。 先ほどから言われているように、形から小中一貫校に取り組むと失敗すると思います。
委員	中学校の校長会でも小中連携について協議をしています。中1ギャップについて、小6、中1の全児童生徒を対象にアンケートを実施しました。 小学校から中学校に進学するといろいろなことで環境が変わります。中学校は教科担任制になるし、部活動が始まる、通学距離が遠いというのものもあるし、給食がなくなり弁当になります。また、教科書が分厚くなったりして持ち物が重くなります。 入学した子ども達が、どのようなことで悩むのかというアンケートで、人間関係は比較的良好でした。1番は、授業のスピードが速くなるとか、テスト、進路のことなど、学習面での不安です。 アンケート結果に基づき、それぞれの小学校と中学校の連携事業を実施していますが、市内統一したものもいくつか提案しながら取り組んでいるところです。
委員長	〇〇委員、小学校の保護者として、小中一貫校について今の時点の考えはいかがですか。
委員	小学校は、いじめの問題がとても心配だと思います。メリットとしては、小学校と中学校の交流は必要だと思いますが、いじめを引きずる不安があります。 いい面をもっと出して、こういうメリットが多いから一貫校になるのだという前段として、小中交流をもっと深め、その行き先に小中一貫校にもって行くというやり方が良いのではないかと個人的に考えます。小学校の保護者としては、小中一貫校は良くも見えるが、不安の方が大きいです。
委員長	やり方を考えて取り組まないと、不安があるということですね。 〇〇委員、意見はございませんか。
委員	小学生と中学生が一緒に勉強するのが良いかどうかというのは、これから時間をかけて検証されていく問題だと思います。適正規模の問題と一貫制を絡めた場合、もし中学校が核となって周りの小学校をまとめていくこ

	とができれば、採用できるかもしれませんが、議論で上がっているように、不安のほうが大きいという問題を解決しないまま形の上から入っていくと、とんでもない失敗になると思います。
委員	大牟田の一部で小中一貫校を導入したら、他校からの転入も難しくなるという問題も出てきます。三鷹市をインターネットで調べたところ、小学校15校と中学校7校の全市で取り組んでいます。中学校が核になり小学校2、3校がぶら下がり○○学園というコミュニティ制度を作り、一体的に小中一貫教育に取組み、小中の連携を密に行っています。全市的に一斉に取り組んだので、統制が取れているようです。取り組むならばそういう形でないとい、転居に伴い環境が変わって分からないという状況を生み出していくことになりかねないと思います。同じ敷地の中での小中一貫校は難しいと思いますが、コミュニティを作って取り組んでいく可能性はあるのではないかと思います。
委員	大牟田はいずれ小学校も中学校も大きく再編するのは皆さんご存知ですね。30年後になったときに、小中一貫校を考えておかなければならないという提案をしているだけであって、小中一貫校が先にありきということを行っているではありません。その時になって考えても遅いということです。5年、10年ではなく、30年後というときに、学校はこうあるべきという1つのモデルとして、小中一貫校もあるのではないかとということで、今のうちからの論議を一番初めに提案したもので、これが正しいということで提案しているではありませんので、訂正しておきます。小中一貫校ありきと受け取られたようですが、そうではありません。30年後に想像もしないような学校同士が1つになり、小学校も4校ぐらいが1つになる可能性もある。そのときの議論をしようではないかということです。
委員長	<p>小中一貫校の良いところもあるから、他市では取り組んでいます。福岡市では20%も私立中学校に進学しますので、モデル校として準備委員会を設置し舞鶴小学校、大名小学校、箕子小学校、舞鶴中学校を統合し、平成26年4月に、舞鶴小学校の位置に小中一貫校を開校します。舞鶴小学校を校地とするのは、通学距離が大名小学校、箕子小学校からと同じという通学距離の面もあります。中1ギャップ、いじめの問題で、小学校5、6年と中学校1年の接続期の充実を図り、生徒指導の問題、いじめが起きないようにすることを考えているようです。</p> <p>そのために、敷地と校舎を小学校と中学校で一体利用する。職員室も一緒です。そして、小学校の5、6年、中1の先生方でティームティーチングを実施する。小学校と中学校の教員免許取得の課題はありますが、小学校と中学校の接続期の段階を充実すれば、中1ギャップの問題は解消されるでしょう。</p> <p>特徴は、へき地や離島は小中一貫校をしているところが多い。これは、地域に学校のプールや図書館を開放しようとしているもので、学校を地域コミュニティの中心に据えようとしています。</p> <p>大牟田も今回は小中一貫校に取り組まなくても、将来は小中一貫校を見据えていかなければいけないという意見だと思います。小中一貫校を実施するためには、形ではなく中身だということを理解したいと思います。</p> <p>小中一貫校の協議は、一応終了してよろしいですか。</p>
全委員	了承。

委員長	<p>前回の検討委員会で、適正規模は12から18学級ぐらいとすると協議していました。</p> <p>学校の配置については、文部科学省は通学距離を小学校4km、中学校6kmとしていますが、大牟田では小学校3km、中学校6kmとしていました。スクールバスや自転車での通学を念頭に置きながら、後半は具体的な再編の在り様について、いろんな視点から意見を出して頂きたいと思います。</p>
-----	---

【5分休憩】

- (4) 適正規模の考え方について  
(5) 適正配置の考え方について  
(6) 大牟田市での具体的な再編の在り様について  
①大牟田市が目指す小学校の在り様  
②大牟田市が目指す中学校の在り様

発言者	発言内容
委員長	<p>今の時点で、大牟田市の小学校と中学校の将来を見据え、再編したが良い学校など、自由に意見を出してください。たたき台にしたいと思いますので、自由な発言をお願いします。</p> <p>まず、検討を要する中学校について発言してください。〇〇委員、何かご意見はありませんか。</p>
委員	<p>私学は選ばれる、選ぶという形があります。中学校は選べないのかもしれませんが、小中一貫校は選べるのかなあとと思うと、小中一貫校で選べるような中学校も1校あったがいいのではないかと思いながら話を聞いていました。一応、セオリーというのがあるでしょうから、平成36年度の中学校の学級数、生徒数の見込みが出ていますので、個人的には大牟田の学級数は、ある程度偏らない中学校をつくるのがセオリーではないのかと思います。</p>
委員長	<p>選ばれる学校。適正な規模、学級はそんなにコンクリートにしなくても良いであろうというご意見ですか。</p>
委員	<p>はい。</p>
委員	<p>中学校は、甘木中が橘中から分離したと資料にありました。元の形に戻していくのはどんなのでしょうか。</p>
委員長	<p>甘木中と橘中を1校にするという案ですね。</p>
委員	<p>勝立中は玉川・天道・笹原小学校から進学しますが、玉川小学校の児童の通学距離が、子どもの足では大変ではないかと考えます。小中一貫校は、勝立中学校でしたら良いのではないかとパッと頭に浮かびました。</p> <p>いじめなど考えなければなりません、小学校の人数が、3校併せても1学年50名程度なので、小学校がもう1校くらい入れれば良いのではないかと思います。地図を見ると、将来的には駿馬南、駿馬北小学校も勝立中学校に入っても良いと感じています。</p>
委員	<p>地図に均等に線を引いてみましたが、随分と人口密集度に偏りがあるの</p>

	<p>が分かりました。人口が少ない地域は、かなり広範囲の校区にしないと、例えば上内、吉野、銀水小学校くらいをまとめないと、ある程度規模のある中学校にならないのではないかと思います。また、今ある場所に学校を置くのが良いのかという疑問もあり、30年、50年後のスパンと考えれば、財政に余裕があって土地があれば、適切な場所に新しく学校をつくるという方法もあるのではないかと感じていますが、具体的な考えは今のところありません。</p>
委員長	<p>既存の学校だけではなく、全校区で考えるということですか。</p>
委員	<p>人口分布の偏りがあるので、先を見たときには、今学校があるところだけでは無理があるだろうと感じています。 もしかしたら新しい発想が必要ではないでしょうか。</p>
委員	<p>箱物のお金がかかって大変というのは分かるが、広範囲でスクールバスの運行を検討してはどうでしょうか。 上内小学校区に住んでいるので、地域の方が一生懸命頑張っているのは分かるが、最終的には子どものためになるように、子どもと地域を最初に考えた統廃合が必要だと思います。 子どものために、細かい配慮を検討委員会としてきちんと出す必要があると思います。具体的な案は浮かびません。</p>
委員長	<p>学校再編は子どものためにするというのは、絶対的な基本でしょう。</p>
委員	<p>子ども達が第1番。既存の学校を全く考えずに、どうにかして現在の小学校を中学校の位置に変えてもいいのではないかと。また、中学校を小学校に変えてもいいのではないかとこの考えの下、中学校の6等分を考えていましたが、まだまとまっていません。</p>
委員長	<p>2つの小学校を再編して中学校に持ってきて、中学校を別の中学校と再編するという発想を考えているということですね。</p>
委員	<p>耐震構造の問題で、危険な学校と、まだもつ学校があります。既存の学校の活用だけで再編を考えると、偏りがあると思います。それと、少ない学校は再編するとか、多い学校は分けるとか、もっと議論が必要ではないでしょうか。</p>
委員	<p>将来を見通すのは大切だと理解できますが、ランドセルが背中よりも大きい1年生を思うと、あまり遠くの学校にはやれないと思います。それから、あまり急激な環境の変化は、低学年には可哀想だと思います。判断基準にするのは、通学の距離が1番大切かなと思います。スクールバス、路線バスの活用も多少は仕方がないのかと思いますが、急激な変化というのは子ども達には可哀想な気がします。通学距離から見た校区の編成が良いと思います。</p>
委員長	<p>通学距離の問題があります。〇〇委員、中学校の校長会では話し合いがあっていますか。</p>
委員	<p>中学校では、延命・右京・船津中学校の再編準備に向け、再編年度を目標に、中学校の規則などを見直すことができたらと考えています。PTA</p>



	<p>でも、中学校のPTA連合会の役員選出の担当校割も検討されています。</p> <p>また、校区が広いから学校の規模が大きいわけではありません。個人的には、田畑、工場など、住居がないところも含めて考えてみないと、通学距離は出ないのではないかと思います。前回確認した通学距離の小学校3km、中学校6kmや、学級数も、中学校は1学年4学級程度を基準に考えたらと思います。</p>
委員	<p>距離の問題が1番です。隣同士の校区でも地域や文化が異なっているところがあると思います。そういったところが一緒になるのは、うまくいくのかどうかと思います。</p> <p>これまでのみなど、天領、天の原校区は隣の校区と同じような文化の地域でしたが、田舎と都市部が一緒になるのは、なかなか厳しい問題があるのではないのでしょうか。</p> <p>今までは学校の再編に伴い地域も再編しているようですが、例えば、祭りや歴史があるA校と新興住宅地のB校を統合する場合、いろんな問題があると思います。</p>
委員	<p>私の子ども達は三池小学校に通いましたが、中学校進学時に2つに分かれました。歴木中は平原、高取、三池の3校から進学しますので、中学校進学時に、各小学校の雰囲気に特色があるなあと感じました。</p> <p>小学校は地域のコミュニケーションの中心にあるだろうと思うので、子ども達が安心して歩いて通学できる範囲で、地域の中で交流しながら学校生活を送るのが、小学校のときは理想的ではないかと思います。</p> <p>高取に団地ができたときは子どもの数も多かったのが、今は高齢化して子どもも少なくなりましたが、地域の子供達を大事にして文化を育ていきたいと思います。小学校は、小さくてもそれぞれの存在価値がありながら育成されていかなければならないのではないかと思います。</p> <p>中学校は、私たちの子どものときはとても荒れていました。中学校の再編をどう考えたら良いのか、分からないでいます。</p>
委員長	<p>小学校は地域のコミュニケーションの中心にあるということです。前回の検討委員会でも、小学校の再編は最小限に留め、それよりも中学校の再編を進めてはという意見がありました。</p>
委員	<p>基本的に大牟田市内は2つの小学校に中学校1つで、まちづくり協議会からは中学校は外れていますので、校区の中で中学校はどっちつかずです。中学校の再編にはそう抵抗はないと感じました。</p> <p>小学校は地域コミュニティ、災害時の避難場所となるので、小学校数が減ると収容場所がないという問題も膨らんでいきます。</p> <p>必ずしも1つに決めるということではなくて、様々な案を勘案した上で小学校を再編して、中学校は思い切って1学年4学級になるように再編の方向性を考え、中学校の方から小学校に持って行ってはどうでしょうか。</p>
委員長	<p>3月11日の大震災で、総務省から小学校を避難場所として確保するように通知があっています。中学校は、思い切って再編しようじゃないかという意見です。小学校の再編は最小限にして、距離の近い学校と再編する。〇〇委員、再編についてご意見をお願いします。</p>
委員	<p>15～20年先ということであれば、ブロック別に再編することが考え</p>

	<p>られます。30年から50年先ということであれば、大きく、大牟田南中学、北中学の核をつくり、力をつけて交流していく。そういう元気が出てくるような学校ができればいいなと思います。</p> <p>小さくまとまる交流も効果があると思いますが、大きくまとまって交流するのも楽しいと思います。</p> <p>中学校は、未来は南北ではどうかと思います。それから、小さい文化を継承するために、学校を再編するのはどうかという考え方もあると思いますが、現実的には、大牟田市にも外国人が多くなっていますので、国際的な意味合いからもコミュニケーション力を小学校のうちから身につけるために、伝統文化の継承だけでなく、外部からのいろんな文化との交流を考えるべきだと思います。</p>
委員長	<p>青森県の東通村では、平成16年頃から小学校16校と中学校6校の22校を、1校の小中一貫校にしましたが、住民の反対は一切ありませんでした。それは、力づくではなく、丁寧に子どものためにと説明を十分地域にされ、住民が理解されたからです。</p> <p>15～16年前は、住民の意見を聴かずに行政が一方的に進めても、裁判では行政が勝っていたそうです。しかし、現在は絶対に勝ちません。どんなに結果が良くても、手続きをきちんとしなければならない。これを「手続きの定理」と言うそうです。</p> <p>中学生は部活動の問題などがあり、学校に活力を生み出していかうではないかということで、中学校の再編は大胆に進めるという意見が出ました。</p>
委員	<p>大牟田では規模の大きい田隈中学校でも、平成36年度には生徒数が約300人です。</p> <p>小学校については非常に微妙な問題があります。目安はある程度必要ですが、これは教育だけの問題ではなくて、政治も関わる問題です。大牟田のまちをどうするかという中で、学校が既存の場所にあるということではなく、新しい中学校をつくることといった、まず発想の転換をしないとこの議論は難しくなります。</p> <p>みなと、天領、天の原、上官・大牟田、延命・船津・右京までは我々の常識で再編できますが、これからは利害関係もあるだろうし、30年後のことを考えて進める必要があります。中学校は自転車通学なども認めると遅く通学します。小学校は日本の文化の中で線引きがあります。それでも再編が必要な学校はありますが、大きく再編する必要はありません。</p>
委員	<p>中学校は6校ぐらい。小学校は歴史などがあるので、中学校が決まるのに伴い、自ずと小学校も決まると思います。</p> <p>船津・右京・延命中の3校再編を前提に考えると、500人から600人規模の学校になると思います。</p> <p>例えば、松原と白光で1校、米生と勝立で1校、甘木と橘で1校。甘木も橘も校舎は狭い。田隈を解体して元に戻せばよいという気もします。三池小は歴木中だったので、旧歴木、旧橘、旧白光に戻せばよいのではないかという意見も出てきます。田隈中も1校では生き残れないと思います。</p> <p>6校ぐらいにすればよいのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>中学校は、〇〇委員のおっしゃった数ぐらいに減らさないと、平成36年度の推計を見ると、また再編のやり直しが必要になると思います。教科の先生もゆとりを持って、教える側もキュウキュウにならないような状況</p>

	<p>で学校を維持できたらと思います。</p> <p>例えば、銀水小学校の子ども達は、田隈中と橘中に分かれて進学しますので、もしかしたら他の小学校でも分かれて中学校に進学するといったことも出てくるのではないかと思います。</p> <p>小学校はあまり小さくても厳しいと思いますので、前回の検討委員会で確認した12から18学級を基に再編も必要ではないかと思います。大牟田小学校と上官小学校の再編のように、再編した大牟田小学校をまた再編ということにならないように、大胆に再編することも必要だと思います。</p> <p>また、小学校は地域コミュニティの基本になりますが、地域文化の違いを認めるという方向性がない故に現在のいじめの問題が起きていると思います。広い観点を持てば、認め合えるようになるのではないのでしょうか。</p>
委員長	<p>今日の結論は、中学校はある程度大胆に見直すべき。小学校は中学校のように大胆な発想ではなく、できるならば最小限の再編に留める方向が良くはないかという意見が出ましたが、それでよろしいでしょうか。</p>
全委員	<p>了承。</p>

#### (7) 議事のまとめ

発言者	発言内容
委員長	<p>次回の検討委員会では、具体的に煮詰めます。</p> <p>中学校は、現在の11校から延命、右京、船津の3校が第二次実施計画に基づき再編します。</p> <p>北部は橘と甘木、南部は勝立と米生を再編したらどうか。この2つの再編に共通しているのは、通学距離がとても広いということです。</p> <p>例えば、上内小学校の子どもたちが中学に進学するときに、橘中学校か甘木中学校までは、相当の距離があります。</p> <p>勝立中学校区の教楽来の子どもたちは、統廃合して、例えば米生中まで通学するときには相当の距離があります。それをどうするか。新しい学校をつくったら良いのではないかという結論は、簡単には出ないと思います。財政の問題があり、1校つくるのに10億円から20億円必要です。既存の学校の活用を検討し、どうしてもできないときに議会なり行政で考えていただく。新設の学校をつくるのは金が必要だからやめるという発想ではなく、それも考えて案を出していくということです。</p> <p>また、市の中心部では、松原・白光中の再編があります。確かにこの2校は近いが、小学校の存在があります。</p> <p>それから、田隈と歴木中では、田隈中を解体して元に戻すという案もあります。または、小学校を統合して中学校に移すということだと、また発想が変わってきます。例えば銀水・羽山台小学校の再編校を田隈中に開校するという事も考えられます。通学距離の問題と登校時の安全の問題があります。銀水小学校近くの道路にはカラーゾーン、7時から9時まで進入禁止の時間帯がある道路があります。</p> <p>中学校をどうするかで小学校は変わってくるということを皆さんおっしゃっています。</p> <p>今回は中学校をメインに、11校を6校程度ということで、事務局から再編案を関連資料も含めて出してもらい、子ども達の学習環境のためにどうあるべきかを検討し論議していくと、自然と小学校の問題が出てくるのではないかと思います。</p>

	<p>次回は、施設の問題、学童保育所・学童クラブ、太陽光発電、その他避難場所として適切かどうか論議する必要があります。今日は突然でしたので、皆さん中々意見を整理できないところがあったと思います。次回は再編の組み合わせ、その理由と問題点も併せて発言いただくと、9月ぐらいである程度の中間報告になります。中間報告はきちんとコンクリートにして出すのではなく、検討委員会ではこういう協議をしているという報告を出すことになります。</p>
--	--

(8) その他

発言者	発言内容
委員長	その他で何かございませんか。
事務局	次回、第4回の検討委員会は、8月28日(火)の15時から17時、企業局講習室で開催します。

3 閉会